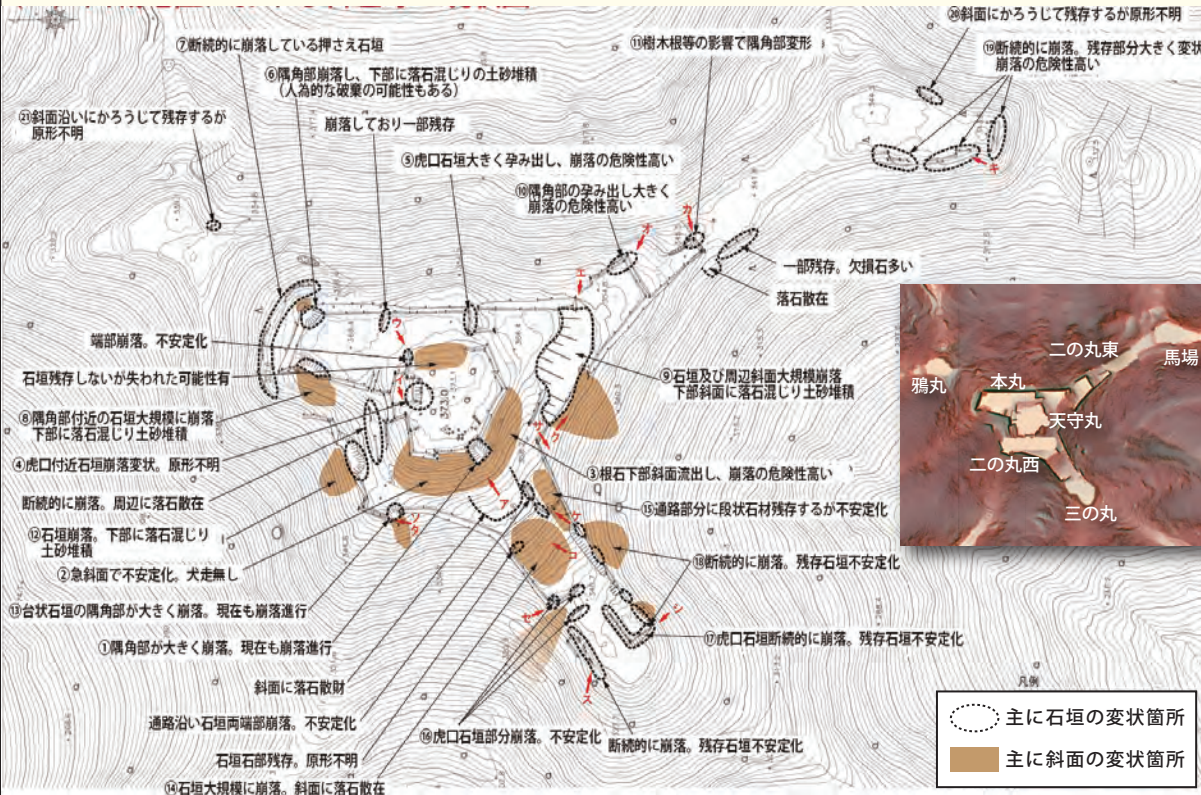


# 石垣の崩落や変状が進む利神城跡

## 「石垣カルテ」で明らかになった山城石垣の現状



NO 4  
2023  
令和5年7月

# 国史跡 利神城かわら版

### 山城中心地区の保存の現状

- ①地盤の風化・斜面流失などがあり、石垣の崩落や変状が進行
- ②動物の食害による下草の消失や踏圧が土壌流失の原因である
- ③石垣の危険箇所が多く、除草などの維持管理が不十分
- ④草刈り範囲等、地域と行政との分担範囲が不明確
- ⑤樹木管理が不十分である



### 御殿屋敷地区の保存の現状は次号でお知らせします

◆**山上の石垣は延長950m**  
利神城の石垣は、山頂部の山城跡と、西麓一帯の御殿屋敷跡に残っています。石垣の延長は、山城跡が約650m、御殿屋敷跡が350mで、総延長約1,000mです。最も高い石垣は、山城跡の本丸北角で、約9mあります。

◆**年々状態が悪化する石垣**  
石垣全般に毀損・変状箇所が多く、山城跡の石垣では下部の法面と共に崩落している箇所や崩落寸前の石垣、大きく孕み出した石垣が見られます。これらは年々状態が悪化することは、

◆**雨水や植物生育が悪影響**  
「保存活用計画」でまとめた山城跡の石垣の現状は、図をご覧ください。とお分かりのとおり、ほとんどの石垣と斜面が不安定な状態です。欠損や変状の原因は、過去の人為的な行為のほか、雨水や石垣面の植物生育などが徐々に影響しているようです。最も保存が急がれる箇所は、平成2年度から応急工事を行ったことは、創刊号でお知らせしたとおりです。

### 整備基本計画策定にあたって ちょっとひとこと①

●「遺跡」と「景観」を一体に考える  
「遺跡」を含めて「景観」の成り立ちを整理すると、まず、もともとの地形があって、そこに雨が降り、そして川ができて、全体の今ある地形ができています。そこに植物が、動物が、そして人間が住み、歴史が刻まれ、文化が育ってきたという、そういう基本的な成り立ちがあると思います。そこに「文化財」があり、「景観」があるという状況ではないでしょうか。それは「遺跡」も「景観」も共通していることで、つまり、その地域の特性というのは、その地形によって決まっています。地理的な条件です。利神城跡の整備は、地理的条件を基に、景観と一体的に考える必要があるのではないのでしょうか。

町は、本年度から利神城跡の具体的な整備プランづくりを始めます。利神城跡の保存と活用にあたって最も重要な課題は、不安定な石垣遺構の整備です。石垣の現況は、航空レーザー計測や石垣カルテの作成によって、おおむね明らかになっています。本号では、令和元年度に策定した「史跡利神城跡保存活用計画」をもとに、山城地区の石垣の現状などをお知らせします。

編集・発行  
佐用町教育委員会教育課  
〒679-5380  
兵庫県佐用郡佐用町佐用2611-1  
☎0790-82-2424